

# 新しい文化を 築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。  
世界的な東洋史学者「内藤湖南」、  
十和田湖の開発に尽力をした「和井内貞行」の  
両氏をメインに常設展示し、  
さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

## 戊辰戦争の中の鹿角

～ 150年の時を超えて～

H30. 4～H31. 3



### 鹿角市先人顕彰館

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地2  
TEL 0186-35-5250

## 先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ...

- ◆第1次展示 H2.7-H3.6  
杉山万喜蔵 (1907-1957) 地域医療に貢献 (尾去沢)  
小田島樹人 (1885-1959) 気品に富んだ作曲家 (花輪)  
関直右衛門 (1873-1943) 鹿角の観光に新時代を築いた (八幡平)  
阿部 藤助 (1886-1928) 郷土の興隆に生涯を捧げた (八幡平)
- ◆第2次展示 H3.7-H4.6  
小田島由義 (1845-1920) 郡長として殖産興業に尽くした (花輪)  
田村小徳 (1875-1947) 俳人・大湯環状列石発見者 (大湯)  
田村徳治 (1886-1958) 日本行政学の創設者 (花輪)  
大里武八郎 (1872-1972) 名著「鹿角方言考」の著者 (花輪)  
大渡 繁雄 (1886-1976) 地域農業の近代化を促進 (八幡平)
- ◆第3次展示 H4.7-H5.7  
阿部 恭助 (1886-1928) 鉱山日記「阿津免草」の著者 (尾去沢)  
立山 第四郎 (1867-1937) 郷土の産業と教育に貢献 (毛馬内)  
川村 竹治 (1871-1955) 育英会を創立した司法大臣 (花輪)  
諏訪 富多 (1883-1981) 地域産業文化の発展に貢献 (大湯)
- ◆第4次展示 H5.8-H6.7  
田中 北嶺 (1838-1918) 「戊辰戦役図絵」を描く (毛馬内)  
坂田 祐 (1878-1969) 関東学院設立と教育に献身 (大湯)  
大里 周蔵 (1884-1965) 町政に尽力した文化医師 (花輪)  
栗山 文次郎 (1886-1965) かつの古代茜、紫根染の大家 (花輪)  
高杉重右衛門 (1889-1964) 地方行政農事に寄与・歌人 (尾去沢)
- ◆第5次展示 H6.8-H7.9  
浅利 佐助 (1844-1920) 醤油醸造業の基礎を築いた (花輪)  
宮城 佐次郎 (1881-1951) 教育と地方自治に貢献 (花輪)  
伊藤 良三 (1883-1964) 教育と町政に尽くす (毛馬内)  
立山 林平 (1888-1918) 将来を嘱望された天才数学者 (毛馬内)  
阿部 貞一 (1895-1950) 農村電化と観光事業の先覚者 (八幡平)
- ◆第6次展示 H7.10-H8.9  
児玉 高慶 (1888-1929) 武道を奨励し青少年を指導 (花輪)  
阿部 六郎 (1893-1974) 郷土文化の向上に貢献 (花輪)
- ◆第7次展示 H9.10-H10.9  
内田 武志 (1909-1980) 民俗学と菅江真澄の研究 (八幡平)  
豊口 鋭太郎 (1873-1952) 秋田県の教育振興に貢献 (毛馬内)  
種市 霊山 (1882-1945) スケールの大きい気骨の書家 (毛馬内)
- ◆第8次展示 H11.11-H12.10  
高橋 克三 (1888-1984) 湖南研究と地域先人の顕彰に尽力 (毛馬内)
- ◆第9次展示 H12.11-H13.11  
黒沢 隆朝 (1895-1987) 音楽教育と音楽起源の研究 (花輪)  
大里 健治 (1898-1978) 音楽、郷土芸能の振興に寄与 (毛馬内)
- ◆第10次展示 H13.12-H14.11  
石田 収蔵 (1879-1940) 北方民族研究の草分け (花輪)
- ◆第11次展示 H14.12-H15.11  
石川 伍一 (1866-1894) 国益に殉じた生涯 (毛馬内)
- ◆第12次展示 H15.12-H16.11  
小松 五平 (1891-1972) 鳴子旧系こけしを継承した名工 (大湯)  
川村 薫 (1897-1976) 果樹指導と郷土新聞の草分け (花輪)
- ◆第13次展示 H16.12-H17.11  
相川 善一郎 (1893-1986) 彫塑・彫刻など文化活動に貢献 (花輪)  
馬淵 テフ子 (1911-1985) 空駆けた女流飛行家 (八幡平)
- ◆第14次展示 H17.12-H18.11  
川口 月嶺 (1811-1871) 盛岡藩を代表する絵師 (花輪)  
泉澤織太(1777-1840)・牧太(1778-1855)・恭助(1806-1870) 学者の家系(毛馬内)
- ◆第15次展示 H18.12-H19.11  
佐藤要之助(1859-1892)・良太郎(1878-1912) 鹿角りんごの礎 良雄(1906-1977) チェロ奏者 (花輪)
- ◆第16次展示 H19.12-H20.11  
小田島 艸子 (1882-1969) 花輪俳談会を創立 (花輪)  
鎌田 露山 (1891-1966) 毛馬内俳句会を設立 (毛馬内)
- ◆第17次展示 H20.12-H21.11  
山先 青山家の人々 山先 川口家の人々 (尾去沢)
- ◆第18次展示 H21.12-H22.11  
瀬川 清子 (1895-1984) 女性民俗学の開拓者 (毛馬内)
- ◆第19次展示 H23.3-H24.3  
先人顕彰回顧展 浅利佐助他パネル展示
- ◆第20次展示 H24.10-H25.3  
和井内貞行「没後90年展」 十和田湖開発の父 (毛馬内)
- ◆第21次展示 H25.6-H25.12  
柴田 春光 (1901-1935) 才能をうたわれた若き画家 (毛馬内)
- ◆第22次展示 H26.8-H27.6  
内藤湖南「没後80年展」 東洋史学の開拓者 (毛馬内)
- ◆第23次展示 H27.6-H28.3  
畠山文象遺墨展 書道の発展に寄与 (毛馬内)
- ◆第24次展示 H28.4-H29.3  
内藤湖南「生誕150年展」 東洋史学の開拓者 (毛馬内)
- ◆第25次展示 H29.4-H30.3  
岩館 知義 (1925-2016) 松岡 隆一 (1924-2016) (大湯)(花輪)
- ◆第26次展示 H30.4-H31.3  
戊辰戦争の中の鹿角 ～150年の時を超えて～



# 「戊辰戦争の 中の鹿角」

～150年の時を超えて～

今年は戊辰戦争150年の節目に当たります。

1 戊辰戦争とは何であったか 2 奥羽諸藩はどのように戊辰戦争に向ったか 3 盛岡藩はなぜ戊辰戦争に向ったか 4 鹿角口での戦いはどのようなであったか 5 鹿角口の戦没者 6 従軍した人々とその後 7 敗れた盛岡藩と鹿角はどうなったか という7項目からの調査をたくさんの歴史資料からまとめました。150年前、己れの信念に基いて行動した人々の軌跡を辿りながら、これからの鹿角を考える契機になればと思い今回の展示を企画しました。

- 江幡 五郎 藩校教育に邁進するも奥羽越列藩同盟に締結
- 楢山 佐渡 秋田藩の同盟離脱を抗議して総大将として参戦、敗戦の責で刎首
- 目時隆之進 楢山佐渡と上京し勤王派として対立、長州屋敷へ駆け込む
- 近内 一人 九条鎮撫総督の警護役であったが、同盟に抗議して割腹自殺
- 内田 大蔵 医学を目指し維新の志士と交流あったが、兄弟で討入に参戦戦死
- 熊谷助右工門 勤王派であったが参戦、藩主上奏の「時勢論」を胸に入れ戦死
- 栗山新兵衛 花輪隊一番手総取締役、戦後は十和田湖開発に尽力
- 小田島由義(徳弥) 花輪隊二番手総取締役、戦後は鹿角郡長で産業振興
- 佐藤新之助 花輪隊三番手総取締役、戦後は自宅を寸陰館に開放 鹿角りんごの祖要之助の父
- 工藤 友蔵 花輪中野隊の使武者として参戦、川村左学、川守田民人と「軍中御用留帳」を記す
- 内藤十湾(調一) 毛馬内桜庭隊として参戦「出陣日記」を記す 東洋史学者内藤湖南の父
- 諏訪内右工門(諒平) 大湯隊として濁川へ出陣、戦後は大湯村の基礎を築き村長

# 「戊辰役図絵」を描く

## Hokurei Tanaka

### 田中北嶺

たなか ほくれい

1838-1918 (毛馬内)



田中家の先祖は江州鑄物師で今の滋賀県辻村の人。初め由利亀田に来て元禄8年五城目の鑄物座を訪れたが、その後白根鉦山に近い毛馬内に移った。北嶺は田中家15代目に当たる。町人の子に生まれ少年時代から山口流の剣法を学び毛馬内城代桜庭氏の家臣に取り立てられ、盛岡城下に出る。剣道に励む傍ら鹿角の先輩(南部藩お抱え)絵師川口月嶺に師事す。四条円山派の絵を学び、一時は京都に上り森寛齋に入門して特に月嶺の師匠鈴木南嶺の画風を手本にした。画材を自然界に求め花鳥や動物を写実的に調和のとれた物を描く。絵日記を後世に残す。

### 略歴 a brief personal record

- 天保9年(1838) 北嶺は毛馬内下小路に呉服を商う彦兵衛の長男として生まれた。名を茂八郎と名付けられる。幼少より絵を好み月嶺の許に弟子入り北嶺と号した。
- 慶応4年(1868) 戊辰戦役起こり桜庭祐橘氏の馬廻役(側近警護)として従軍。桜庭隊は南部軍の有力な一戦部隊として進撃し大館城の攻略に参加する。その他各地に転戦、戦陣の間、日記帳に絵筆を走らせた。(8月9日出陣、9月下旬終戦)。帰還後、戦場を思いうかべ戊辰戦役絵日記録を作成する。この絵日記録(戊辰役図絵)が鹿角市文化財指定となる。(昭和52年)
- 大正7年(1918) 2月死去、毛馬内常照寺に葬られた。享年81歳。